

岡山県

せいきょう連 ニュース

岡山県生活協同組合連合会 Tel: 086-221-4301 ホームページ <http://kenren.jccu.coop/okayama>

6月25日 第49回岡山県生協連通常総会が開催

総会では、来賓に岡山県、日本生協連、県労福協のご臨席をいただき、石井県知事のメッセージをはじめとして、励ましの言葉をいただきました。また、県議会議長、政党、県内の協同組合や全国の生協などからは祝電・メッセージを頂戴しました。

議案は、1~6号議案まで、賛成多数(第5号議案は2/3以上)で可決・承認されました。また、役員補充選挙が行われ、会員理事区で1名、全体理事区で1名の新役員の当選が確認されました。最後に総会決議を採択して08年度の活動がスタートしました。

ご臨席いただいた来賓のみなさま

通常総会

岡山県生活協同組合連合会



↑岡山県生活環境部
参与 三宅 進さん

公私ともご多忙な中をご臨席いただきましたご来賓のみなさま、祝電・メッセージ等をお寄せいただきました。多くの方々にご協力いただき、誠にありがとうございます。

通常総会

岡山県生活協同組合連合会



↑日生協中四国地連
事務局長 人見 昭生さん

通常総会

岡山県生活協同組合連合会



↑岡山県労福協
会長 坪井 義範さん

エッセイ



木村高清 (県生協連副会長・岡山医療生協専務理事)

毎年7月の第1土曜日(今年は7月5日)は、国際協同組合デーだ。1923年から「平和とより良い生活を築く」ために運動の前進を誓いあう日である。現在、国際協同組合同盟(ICA)加盟組織は88カ国226団体、参加の組合員は8億人になるという。

生協法が60年ぶりに改正された。定款の改定、諸規約の整備などやや消化不良気味なれどなんとか総代会議案として成文化でき承認された。そして、やっと県からの認可がおりた。これからが改正法を活かした運営の本番だ。そこで改正法の意味をきちんと受け止めるためにも、1995年のICA大会で採択された「協同組合のアイデンティティに関する声明」との関係を考えてみた。

第二条(組合基準)は、1937年原則に準拠したままであり、21世紀にふさわしい生協法という点では、現行原則(1995年)を取り入れるのは、

今後の課題となった。特に、コミュニティへの関与(現行、第7原則)は、環境問題、福祉問題、人権問題など企業としてもこうした社会問題に関する社会的責任が問われているだけに検討が急がれる。しかし、第二章(事業)九条(最大奉仕の原則)の規定は、協同組合の定義・「協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人びとの自発的な組織である。」と共通する考え方であり、健全経営を通じ、組合員の願いに応える事業運営を心がけたい。また、今度の改正で医療・福祉事業が明記されたことは、組合員制の組織である生協が、こうした公共性・公益性の高い事業の担い手として社会的に認知されたものであり、画期的なできごとである。コミュニティにより多く貢献していくために、員外利用の緩和措置をどう活用するかも含め執行力が問われている。

2008 4 月以降の主な取り組み

●消費者月間学習講演会【6月7日 13:00～15:00】

6月7日(土)、きらめきプラザを会場に「消費者月間学習講演会」が開催されました。

この講演会は、消費者月間を記念して、毎年開催されている学習講演会で、今回は、岡山県消費者団体連絡協議会が主催し、消費者ネットおかやまの共催で行われたものです。

今回のテーマ 「消費者被害の未然・拡大防止と消費者団体の役割」

月間学

岡山県消費者団体連絡協議会



↑開会挨拶をされる藤原 忍さん

月間学

岡山県消費者団体連絡協議会



↑県内の相談事例の特徴について話す佐藤さん

県消団連代表幹事で JA 岡山県女性組織協議会会長の藤原 忍さんが開会挨拶をされました。

「消費者被害が絶えないなかで『賢い消費者』になることが求められている。そのためにも消費者啓発の取り組みは大切、今日の学習講演会の意義は深い、みんなで学んでいきたい。」と述べられた。

消費者団体・生協など 16 団体、司法関係者など 101 名の参加者がお二人の講師のお話しに聞き入りました。

講演Ⅰ「県内の最近の被害・相談事例の特徴について」

講師：佐藤 秀樹さん(岡山県消費生活センター所長)

佐藤 秀樹さんのお話 — 寄せられた感想から —

「消費者からの相談が多いのにびっくりしました。相談内容にも驚きます。」「県消費生活センターとして、消費者被害に対して未然防止に取り組まれている様子がよくわかり、心強く思いました。」

講演Ⅱ「人はなぜ、だまされるのか～消費者心理とその防止～」

講師：西田 公昭さん(静岡県立大学准教授、社会心理学)

西田 公昭さんのお話

—寄せられた感想から—

「まさに私向けのテーマでした」「自分の弱点について考えることができて良かった」「だましのテクニックが巧妙になって行く中で、誰もがその被害者になる

可能性があることを実感、今日のお話のような情報こそマスコミがとりあげ、発信していくべきではないでしょうか? 霊能者をもってはやすようなマスコミの態度をかえられるような活動も併せてすすめていけたらよいとあらためて思いました」



↑騙されやすい人・景品をもらおうと・・・つい

コミがとりあげ、発信していくべきではないでしょうか? 霊能者をもってはやすようなマスコミの態度をかえられるような活動も併せてすすめていけたらよいとあらためて思いました」

●特定非営利活動法人 消費者ネットおかやま設立総会【6/7(水) 15:35～16:13】

6月7日、「特定非営利活動法人 消費者ネットおかやま」の設立総会が開催されました。

任意団体「消費者ネットおかやま」が発足して、ちょうど一年目に当たります。

通常総会終了後行われた特定非営利活動法人消費者ネットおかやま設立総会では、93名の出席表決数(うち書面表決者数43名)のもと、以下の議事提案があり、いずれも全会一致により可決されました。

- (1) 設立趣旨に関する件
- (2) 定款に関する件
- (3) 平成20年度及び平成21年度の事業計画並びに収支予算について
- (4) 役員に関する件及び設立代表者選任の件
- (5) 確認書について



●岡山県協同組合連絡協議会交流会【7月4日(金)オルガホール】

国際協同組合デーを記念して1996年に始まった交流会は13回目を迎え、県内の3協同組合の役員と県農林水産部職員など48名の参加で行われました。

村上 進通協議会会長(JA岡山中央会会長)の開会挨拶(写真右)について、県農林水産部の藤井伸次長よりご挨拶をいただきました。

基調講演では、三原市立小坂小学校校長の東佐都子さんから「自給自足の体験が育むもの」と題してお話をうかがいました。

小学中・高学年の生徒が、給食の素材づくりを自分たちで相談し、悩みながら、土づくりから栽培・収穫・販売にいたる様子を、生徒たちとの、また同僚の先生たちとのさまざまな葛藤を経ながら、優しくも厳しいまなざしをもって接していく過程が“熱く”“ドラマチック”に語られました。

講演の後の交流会では、それぞれ感想を出し合いました。その後、懇親会に移り、和やかに親睦が深められました。



↑子どもたちを突き放すことも・・・講演中の東校長

●第27回岡山県民平和のつどいが開催【7月5日(土)オルガホール】

今年の平和のつどいは、“核兵器のない世界を！平和を愛する心は国境を越えて”をテーマに開催されました。

岡山大うたう会「みみんこ」による歌と踊りでオープニング。県婦人協議会水野会長の開会あいさつ、被爆者会のあいさつとつづき、ゲストの竹峰誠一郎さん(早稲田大学大学院生、国際関係学、平和研究専門)の講演が行われました。



↑オープニング 「みみんこ」



↑開会あいさつ (水野会長)



↑岡山市被爆者会のみなさん



↑うたう 岡山合唱団

竹峰さんは『知らされない真実～見えない核の脅威』と題して、「マーシャル諸島の現地に暮らす人々の複雑な思いを過去・現在を分析され、真実の探求と伝承を説かれ、参加者に深い感銘を残していただいた。

参加者からは、「ピキニを伝えていこうとしている人がいるんだ～こんな若い方が・・・これからも伝えていって欲しい。思い出したことがたくさんあったし、知らなかったこともある」「映像でみるマーシャル諸島は、とてもきれいでした。見えない核といわれていましたが、本当にその通りで、見えていないかくされている部分をしっかり見ていかななくてはと感じました」などの感想が寄せられました。

竹本さん(写真下)は『最後のトマト～ヒロシマを、私自身の「ことば」で～』と題して、ご自身の被爆体験を通して、「平和をつくることの大切さ」を熱く語られました。



↑講演中の竹峰さん



被爆者会の方からは、「8月6日夜のことを思いおこさせ身のひきしめる思いがした。私と4年の年齢差、中学生の犠牲者も多数出会いましたが、一人ひとり本当にご苦労の中を生きのびられたこと感動の連続でした。お若くお元気な間に可能な限り各地でご講演いただけることを、特に日本の若い人達にお願い出来ることをただただお祈りしています」、ほかにも、「被爆後の逃げまどう道筋を克明に示しながらのビデオは、今までのどんな話よりもわかりやすく衝撃的でした。この時の体験を生協運動に活かして下さったのだとありがたく思いました」「胸をうたれました」「心にしみました平和は”作り上げるもの”忘れてはならないと思いました」等々の感想が寄せられました。

今回の「平和のつどい」は、お二人の講演を通して、戦争体験者も、戦中・戦後生まれの人たちも、あらためて平和への決意を確認し合う貴重な機会となりました。

県生協連

第49回 通常総会の報告

～ 改正生協法に伴う定款等、全議案を承認しました ～

吉田 弘美理事の司会で始まり、本総会の成立が宣言された後、県学校生協の伊藤勝さん、生協おかやまコープの吉田悦子さんの両代議員を議長に選出しました。



安場 靖会長理事の挨拶の後、ご臨席いただいた3人の来賓よりご祝辞をいただきました。

また、多数寄せられた祝電・メッセージの中から岡山県議会議長、岡山市長、JA 岡山中央会、県森林組合連合会、県漁業協同組合連合会、県婦人協議会の6通のメッセージが紹介されました。



次に、永年勤続表彰57名の職員が紹介され、代表に表彰状と記念品が贈られました。

このあと、1～6号議案の提案及び監査報告がされ、監査規則の廃止と監事監査規則の新設について提案されました。

5生協から5人の代議員の発言があり、採決の結果、すべての議案が賛成多数(定款改正案は2/3以上)で可決、承認されました。

総会は、役員補充選挙を行い、会員理事区1名、全体理事区1名の当選を承認し、総会決議を採択して滞りなく終了しました。

岡山県生協連 第49回通常総会

会場発言から

松本美樹雄さん(県労済生協)

「保障設計運動について」



休日保障設計セミナーを14回実施して、157名が参加。

また、火災自然災害キャンペーンに取り組んだが、自然災害への関心は高いことがわかった。

矢野雅美さん(岡山医療生協)

「特定健診について」



特定健診については、健康保険組合が指定した通りうけるようになっている。日生協健康組合では、家族健診を実施しており、岡山医療生協での受診も可能。1年に1回自分の身体

を大切にするために、受けていただきたい。

笠岡和子さん(倉敷医療生協)

「環境月間に1,000人のNO2測定に取り組んで」



光化学オキシダントの発生が30年前の状況になりつつある。

市民1050人の参加で、6/9にNO2測定に取り組んだ。

高梁川の水質調査は、(財)おかやま環境ネットの助成を受けて、

今年も10月に実施する。9月には、日本環境学会が水島で開催される。テーマは「環境再生と健康づくり。」成功させたい。

藤田恵美子さん(岡山大学生協)

「ハラルフード提供の取り組み」



ハラルフードとは、イスラム教の人たちが食べる食事で、食材も手にいれることが困難。

07年の総代会で留学生に提供できないかどうか検討された。教会や専門家にも相談しながら提供している。

土岐裕子さん(生協おかやまコープ)

「2007年度岡山西地域での取り組み」



米作りにチャレンジした。育てることを学ぶ中で、たべることを大切にする気持ちも成長した。

誰でもできる環境に優しいくらしエコチャレンジに、岡山市の「もったいない運動」とも連携して取り組んだ。



↑ 総会決議案を読み上げる
三井造船生協の佐藤隆則代議員



↑ 採択の様様